

2026年 7 月

アジア・パシフィック経済マンスリー

株式会社 第一ライフ資産運用経済研究所

経済調査部 主席エコノミスト

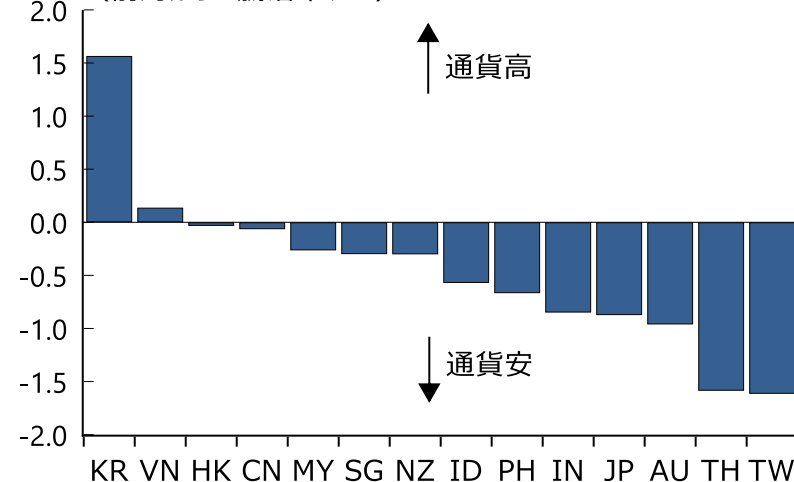
阿原 健一郎 (TEL: 050-5470-4868)

実質GDP（前年比、前期比年率、%）								CPI（前年比、%）			失業率（%）		
		2024	2025	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1	2026 Q2	2025 Q4	2026 Q1	2026 Q2	2025 Q4	2026 Q1	2026 Q2
	中国	5.0	5.0	4.5	4.5	4.9	4.1	0.6	0.8	1.1	5.1	5.3	5.1
	インド	7.2	7.5	9.1	7.5	7.8		0.6	3.1	3.9	7.0	6.7	6.7
	韓国	2.2	1.1	5.6	-0.4	7.5		2.4	2.1	3.0	2.9	2.9	2.8
	台湾	5.3	8.8	6.7	28.7	6.9		1.3	1.2	2.2	3.4	3.3	
	香港	2.6	3.6	3.8	4.3	12.2		1.3	1.6	1.9	3.8	3.8	3.7
	シンガポール	5.3	5.0	7.8	5.2	5.3	4.6	1.2	1.5		2.0	2.0	
	インドネシア	5.0	5.1	5.2	5.6	5.6		2.8	3.9	2.9	4.7	4.7	
	タイ	2.9	2.4	-1.1	7.6	2.7		-0.5	-0.5	2.7	0.7	0.9	
	フィリピン	5.7	4.4	1.4	2.4	3.8		1.7	2.8	6.8	4.6	5.3	
	マレーシア	5.2	5.2	8.3	5.6	0.0		1.4	1.6	2.0	2.9	2.9	
	ベトナム	7.0	8.0	31.9	30.4	26.6		3.1	3.1	4.8	2.2	2.2	2.2
	オーストラリア	1.1	2.0	1.5	3.5	1.1		3.6	4.1		4.3	4.2	
	ニュージーランド	-0.3	0.7	4.5	1.5	4.1		3.1	3.1	4.1	5.3	5.7	

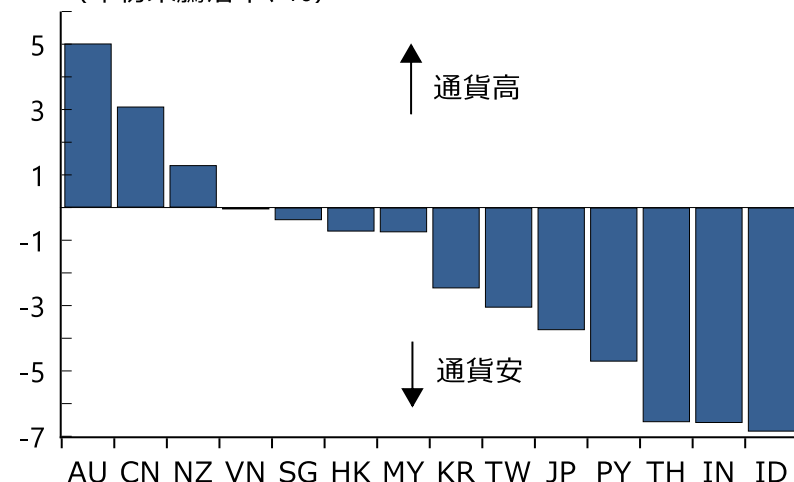
金融市場サマリー

為替

(前月からの騰落率、%)

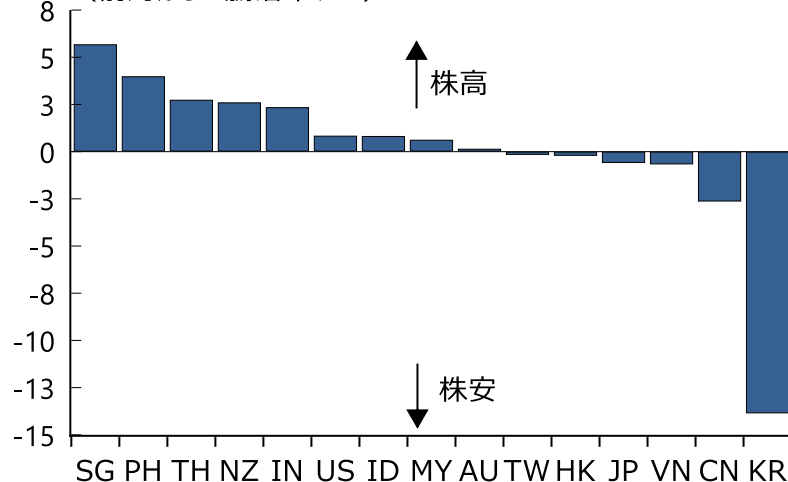


(年初来騰落率、%)

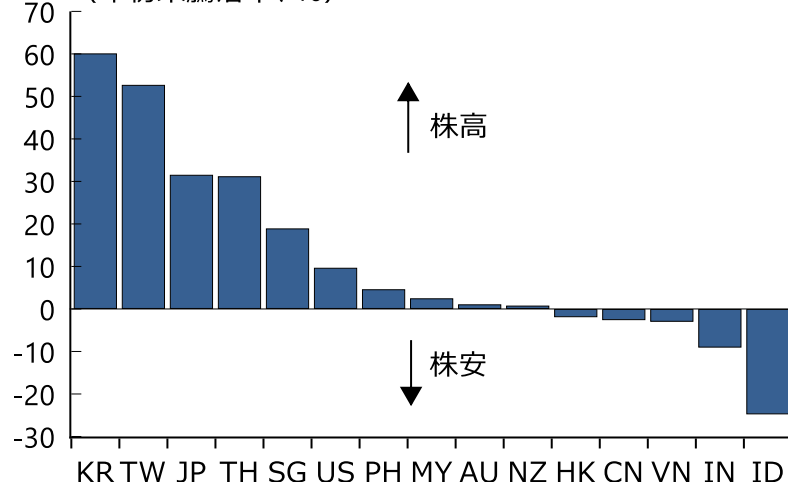


株価

(前月からの騰落率、%)

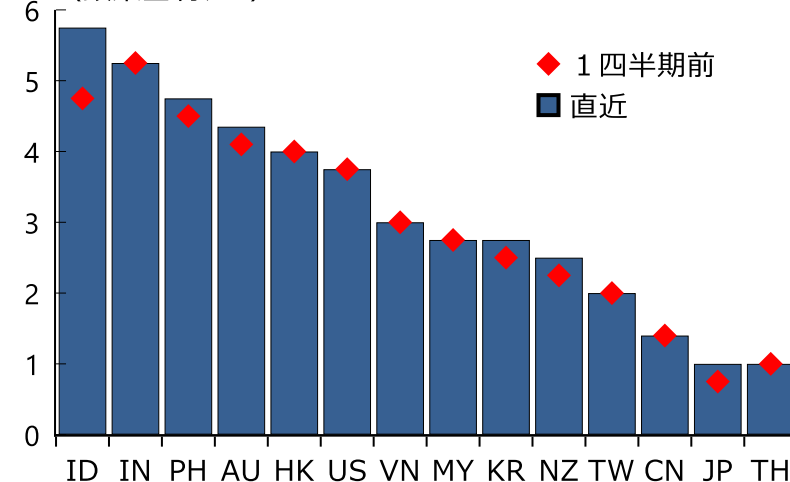


(年初来騰落率、%)



政策金利

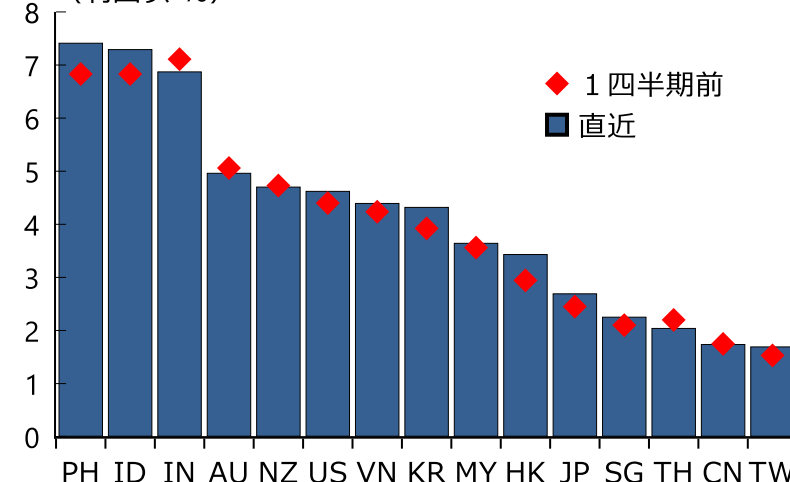
(政策金利、%)



(注) 直近は7/21日時点。

10年国債利回り

(利回り、%)



(注) 直近は7/21日時点。

(注) 前月からの騰落率は26年6月平均と7/21日までの7月平均との比較、年初来騰落率は2025年終値と7/21日終値との比較。
為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU=オーストラリア、CN=中国、HK=香港、IN=インド、ID=インドネシア、JP=日本、KR=韓国、
MY=マレーシア、NZ=ニュージーランド、PH=フィリピン、SG=シンガポール、TW=台湾、TH=タイ、US=米国、VN=ベトナム。

(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成



中国

■ 製造業PMIは拡大ペースが鈍化

6月のRatingDog製造業PMIは51.7と、前月（51.8）から拡大ペースがわずかに鈍化。

■ インフレ率は幾分鈍化

6月の総合CPIは前年比+1.0%と、前月（同+1.2%）から横ばいで推移。中東情勢の緊張緩和に伴う原油価格の低下から、ガソリンなど輸送費の伸びが鈍化し、総合CPIを押し下げた。

■ 消費は低位で推移

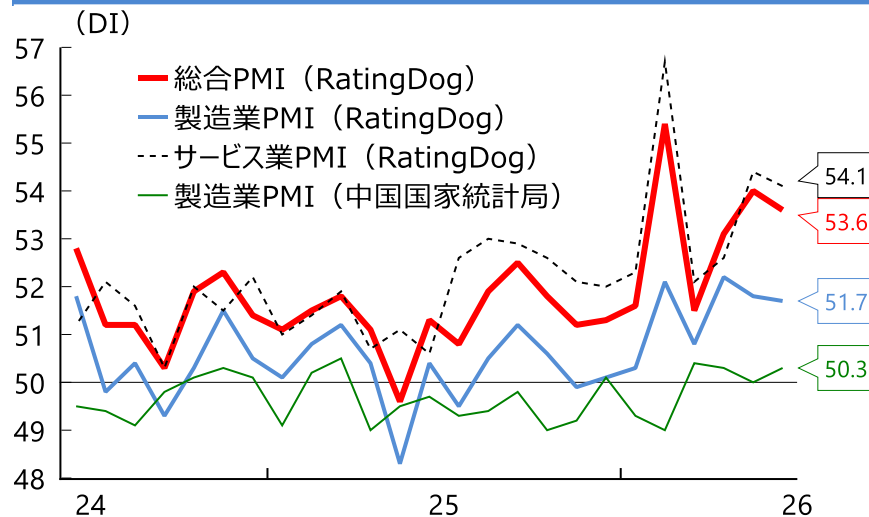
6月の小売売上高は前年比+1.0%と、5月（同▲0.6%）からは増加に転じた。6月の不動産販売面積は同▲12.5%と、依然として減少が続いており、不動産市況の低迷が長期化している。

■ 輸出は増加幅が拡大

6月の輸出は前年比+27.0%と、前月（同+19.3%）から増加幅が拡大。世界的なAI投資の拡大を背景に、半導体などのハイテク製品や機械電気製品の出荷が増加した。仕向け地別では、前年の裏要因により米国向けが同+13.9%と増加幅が縮小したものの、その他の国・地域では増加幅が拡大した。

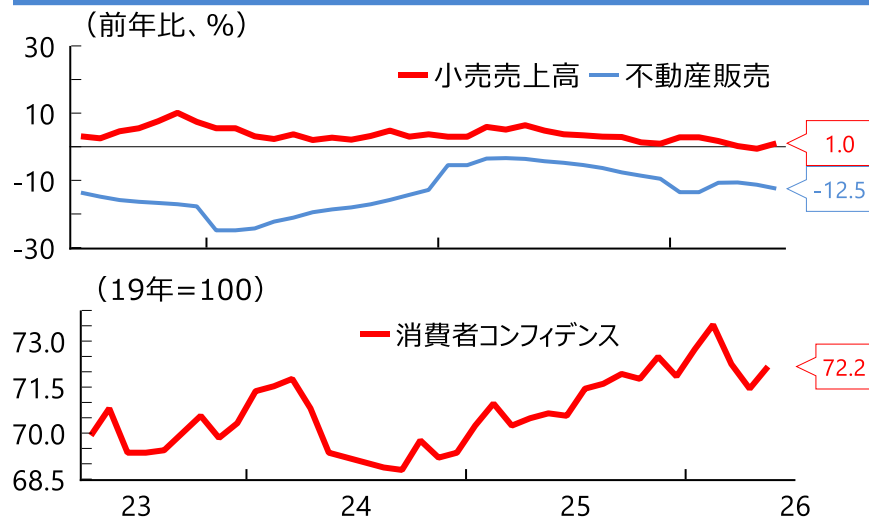
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



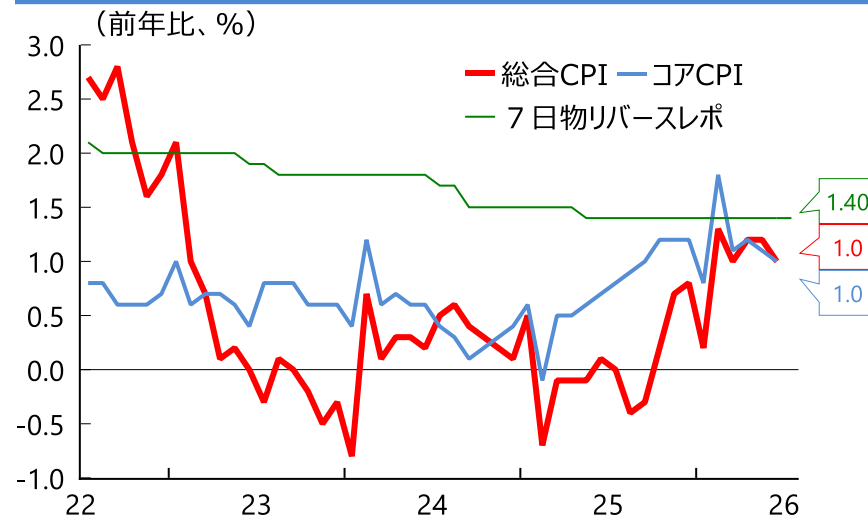
（注）直近は6月。

消費



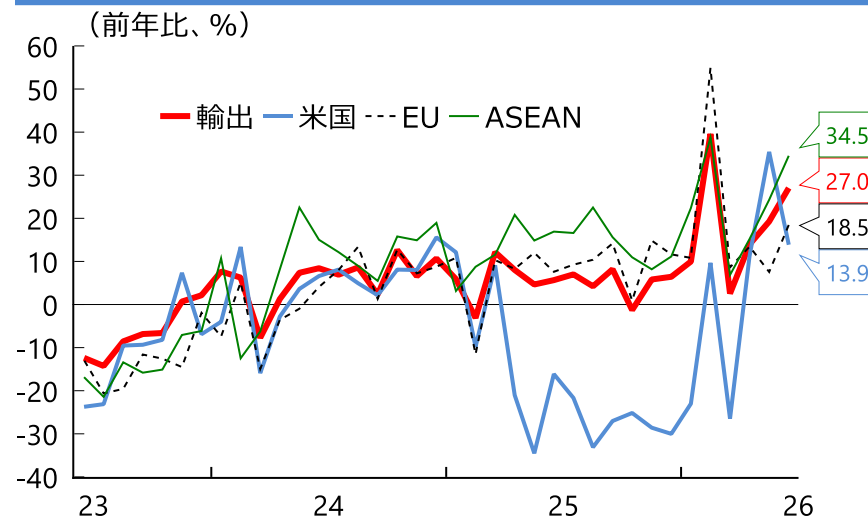
（注）直近は消費者コンフィデンスが5月、その他は6月。不動産販売は面積ベース。

インフレ率と主要政策金利



（注）直近は7日物リバースレポが7/21日、その他が6月。

輸出



（注）直近は6月（速報値）。米ドル建ての輸出額。



インド

■ PMIは拡大ペースが鈍化

6月の総合PMIは57.1と、前月（59.3）から拡大ペースが鈍化。製造業・サービス業ともに新規受注指数の拡大ペースが鈍化し、ヘッドラインを押し下げた。

■ インフレ率は加速

6月の総合CPIは前年比+4.4%と、前月（同+3.9%）から加速。食料価格が引き続き上昇するもと、既往の原油高を受けた燃料価格の引き上げにより輸送費の伸びが拡大し、総合CPIを押し上げた。

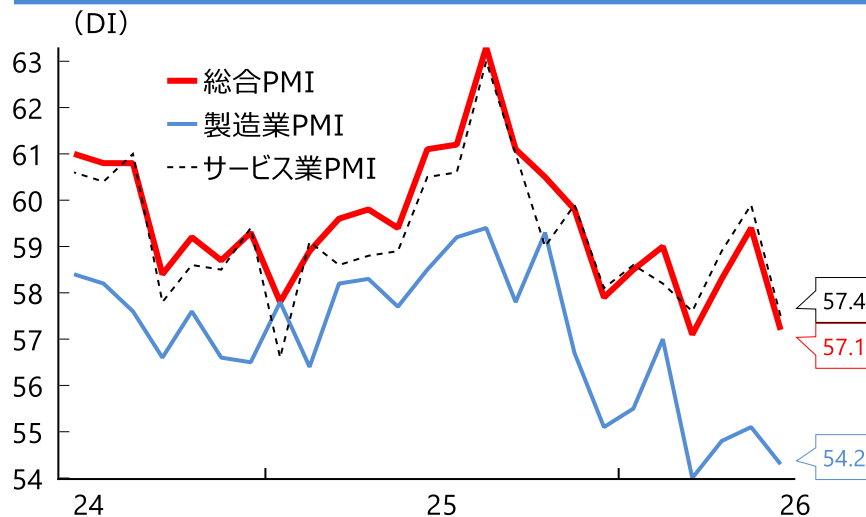
■ 自動車販売は引き続き増加

6月の自動車販売台数は前年比+21.8%と、前月（同+9.5%）から増加幅が拡大。昨年9月からのGST（物品サービス税）引き下げや、各社メーカーが新型車を投入したことから、乗用車の販売台数が増加。

■ 鉱工業生産は引き続き増加

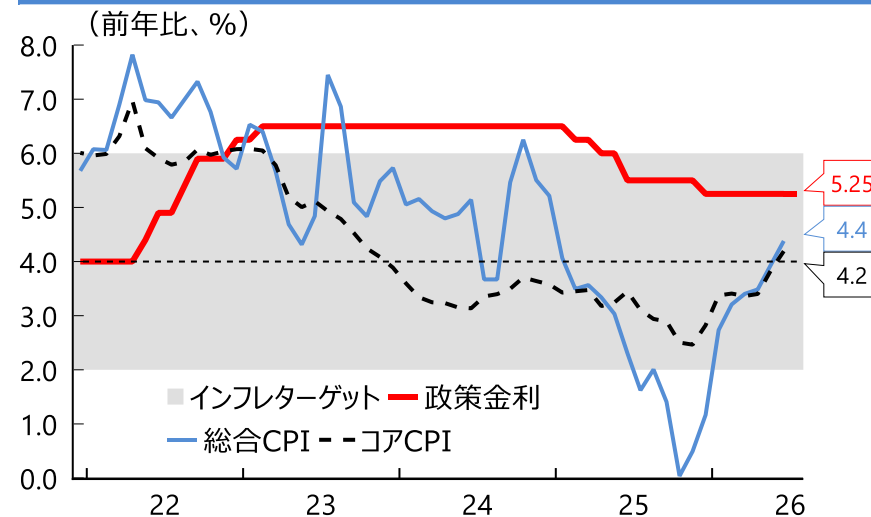
5月の鉱工業生産は前年比+5.1%と、前月（同+4.9%）から増加幅が拡大。製造業や再生可能エネルギーの生産増加が牽引した。

PMI



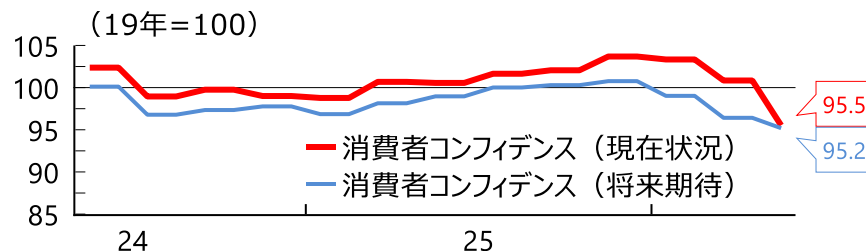
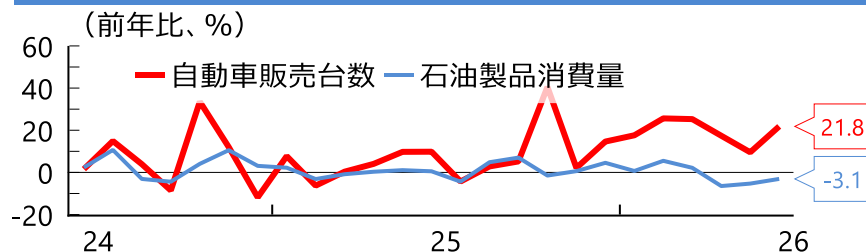
(注) 直近は6月。

インフレ率と政策金利



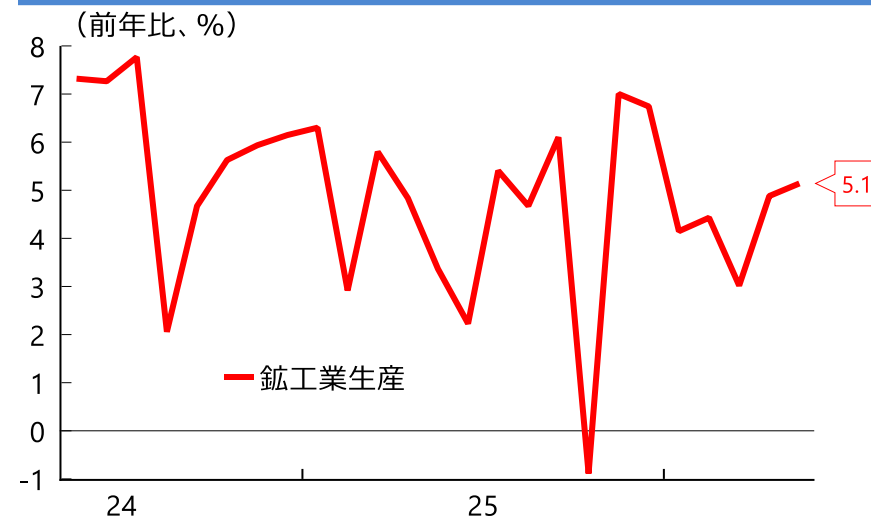
(注) 直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

消費



(注) 直近は6月。自動車販売台数は二輪車などを含む。

鉱工業生産



(注) 直近は5月。



韓国

■ PMIは拡大ペースが鈍化

6月の製造業PMIは52.1と、前月（54.8）から拡大ペースが鈍化。

■ BOKはインフレ抑制の利上げ

6月の総合CPIは前年比+3.2%と、前月（同+3.1%）に続きわずかに加速。イラン情勢悪化による燃料価格の上昇により、引き続き高い水準で推移している。
7月16日、韓国銀行は利上げを決定（+25bps、2.50%→2.75%）。利上げは市場予想通り。2023年1月以来、約3年半ぶりの利上げとなった。声明文では、「輸出と投資に牽引された経済成長の強化に伴い、インフレ率は相当期間目標水準を上回ると予想される」とし、経済成長、インフレ率、金融安定性の3つの全ての領域で利上げの必要性が裏付けられるとした。

■ 消費はわずかに増加

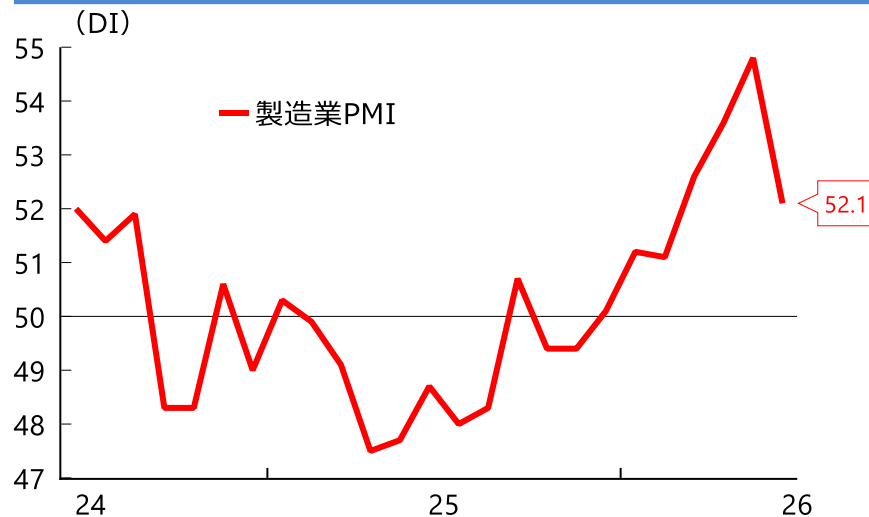
5月の小売売上高は前期比+0.1%と、前月（同▲3.5%）からわずかに増加に転じた。

■ 輸出は過去最高額を記録

6月の輸出は前年比+70.7%と引き続き増加し、単月で過去最高額を更新。世界的なAIデータセンター投資の急増により、半導体輸出が同+199.5%増加し、輸出を牽引した。

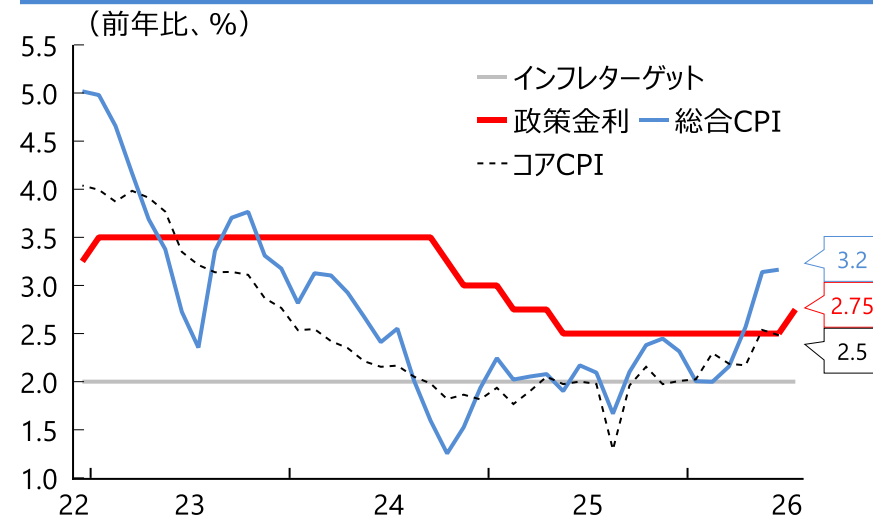
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



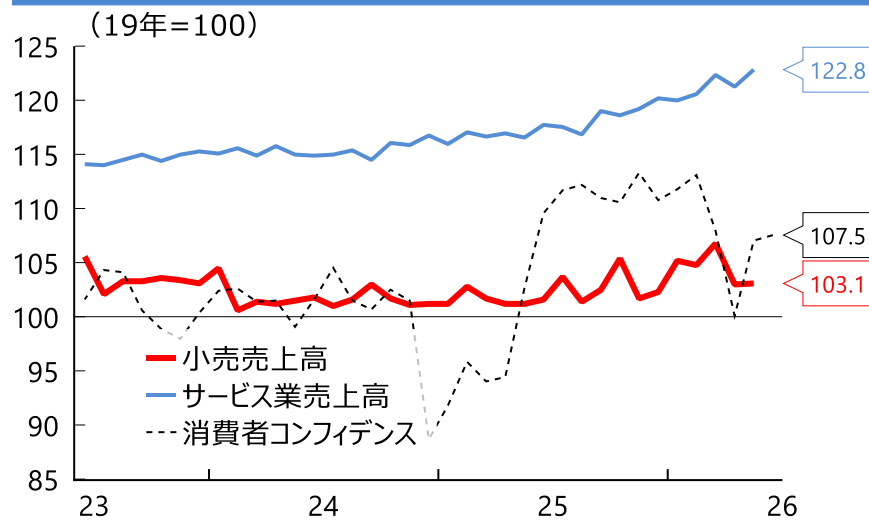
（注）直近は6月。

インフレ率と政策金利



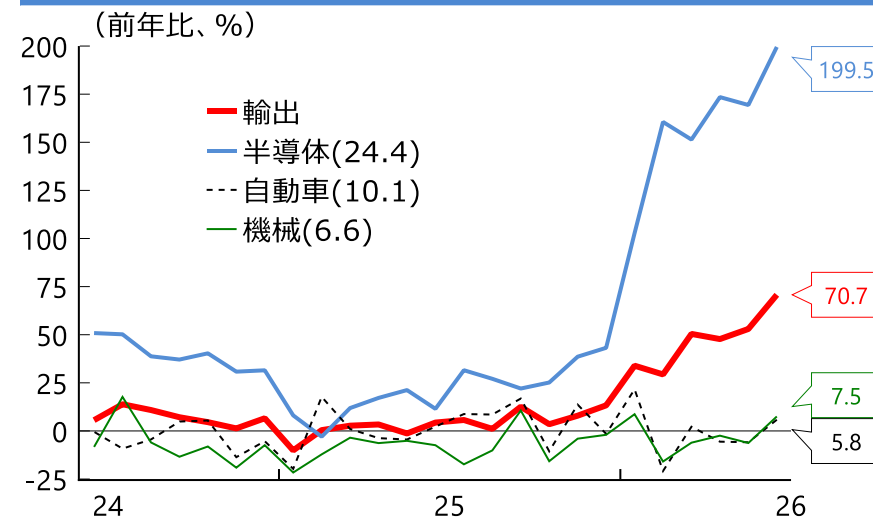
（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

消費



（注）直近は消費者コンフィデンスが6月、その他が5月。

輸出



（注）直近は6月。米ドル建ての輸出額。（）内は25年輸出額に占める割合。

■ PMIは拡大ペースが幾分鈍化

6月の製造業PMIは60.7と、前月（61.4）から拡大ペースが幾分鈍化。エレクトロニクス部門の新規受注指数、生産指数の拡大ペースが鈍化し、製造業PMIを下押しした。

■ インフレ率は加速

6月の総合CPIは前年比+2.6%と、前月（同+2.2%）から加速。中東情勢の悪化による燃料コストの上昇に加え、食料価格のプラス寄与が拡大し、総合CPIを押し上げた。

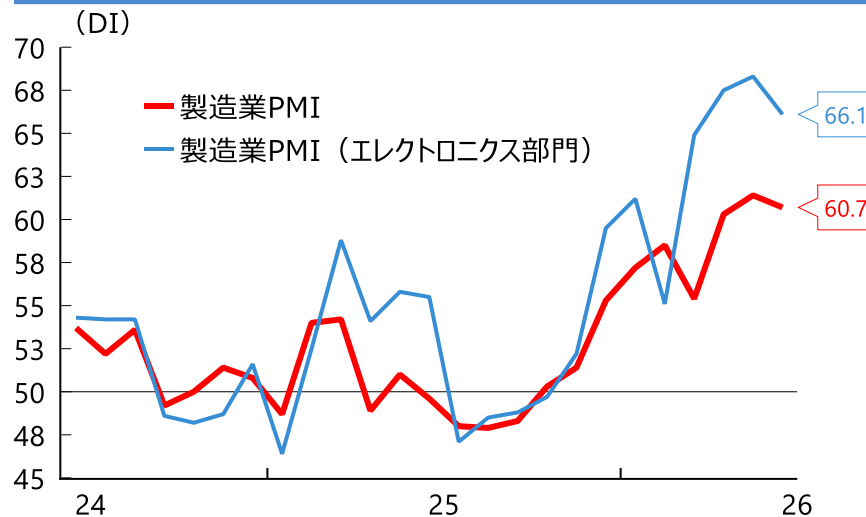
■ 消費は増加幅が縮小

5月の実質小売売上高は前年比+3.0%と、前月（同+4.0%）に続き増加したものの、増加幅は縮小。百貨店や衣料品、ECサイトは堅調だったものの、食品・飲料・タバコが減少したほか、自動車関連の販売不振が響き、全体の勢いはやや落ち着いた。

■ 輸出受注は引き続き増加

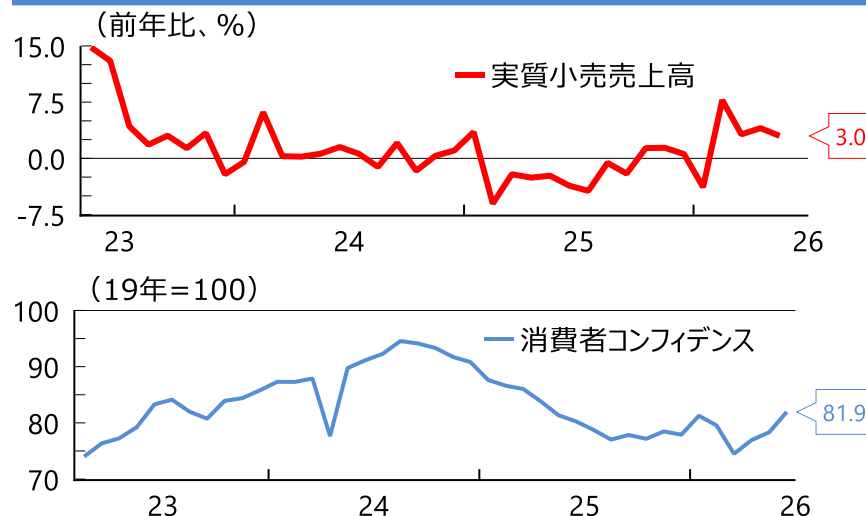
6月の輸出受注は前年比+59.3%と、前月（同+47.2%）から増加幅が拡大。電子部品などのハイテク需要が、引き続き受注のベースを支えている。

PMI



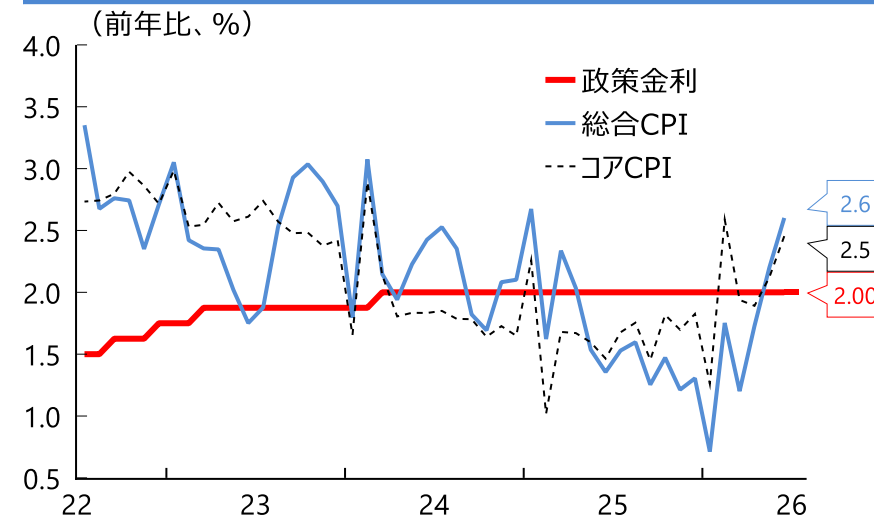
（注）直近は6月。国家発展委員会の公表値。

国内消費



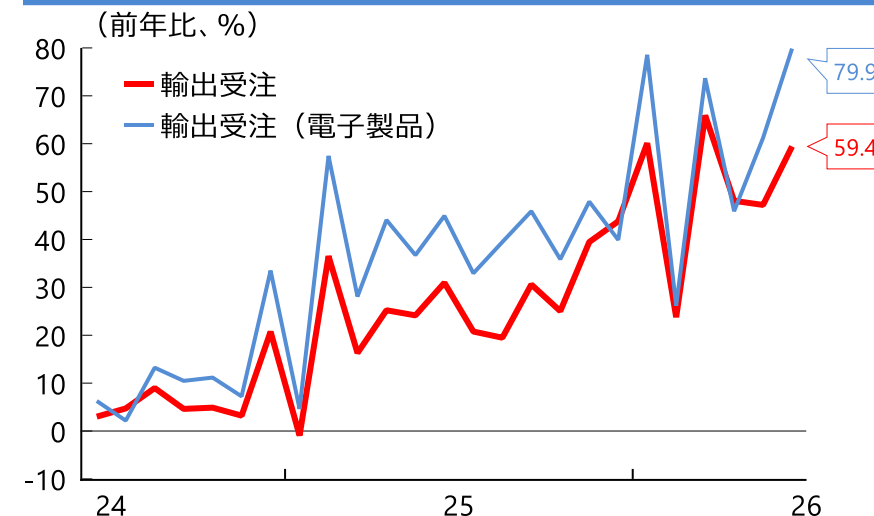
（注）直近は実質小売売上高が5月、消費者コンフィデンスが6月。

インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

輸出受注



（注）直近は6月。米ドル建ての輸出受注額。

■ PMIは拡大ペースが加速

6月の総合PMIは52.0と、前月（50.4）から拡大ペースが加速。新規受注指数が拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率はわずかに鈍化

5月の総合CPIは前年比+1.9%と、前月（同+2.0%）からわずかに鈍化。各種サービス価格や輸送費に加え、電気代が上昇したものの、食料のマイナス寄与が拡大し、総合CPIの上昇を相殺した。

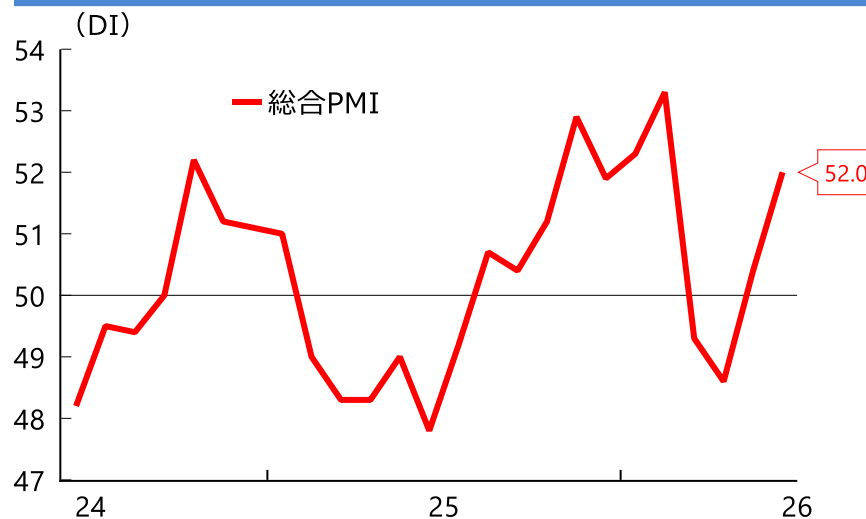
■ 消費は引き続き増加

5月の実質小売売上高は前年比+4.8%と、前月（同+6.6%）に続き増加。インバウンド観光客の増加やオンライン消費が堅調に推移し、売上を支えた。

■ 輸出は引き続き増加

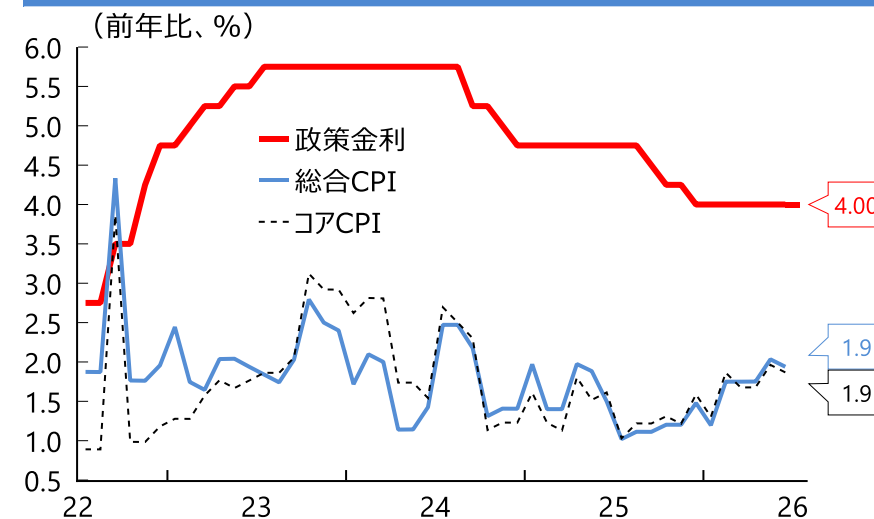
5月の輸出量は前年比+25.8%と、前月（同+32.3%）に続き増加。AI関連の先端電子部品に対する世界的な需要により、中国本土やASEAN、米国向けの出荷が増加した。

PMI



(注) 直近は6月。

インフレ率と政策金利



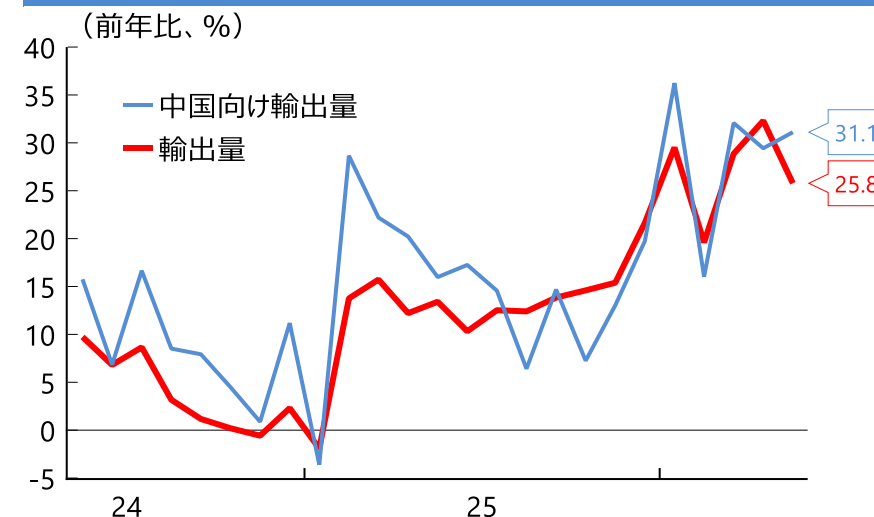
(注) 直近は政策金利が7/21日、その他が5月。

国内消費



(注) 直近は5月。

輸出



(注) 直近は5月。再輸出を含む輸出量の指数。



シンガポール

■ PMIは引き続き拡大

6月の製造業PMIは51.3と、前月（51.0）に続き拡大。エレクトロニクス部門が52.2と、前月（51.9）から拡大ペースが加速した。

■ 政策為替レートは横ばいで推移

直近（4月14日）の金融政策では、シンガポール通貨金融庁（MAS）は、政策為替レートS\$NEERの誘導目標の傾斜を「若干引き上げる」と発表し、金融引き締めに転じた。政策為替レートは足もとで141.47と横ばいで推移。

■ 消費は増加幅が縮小

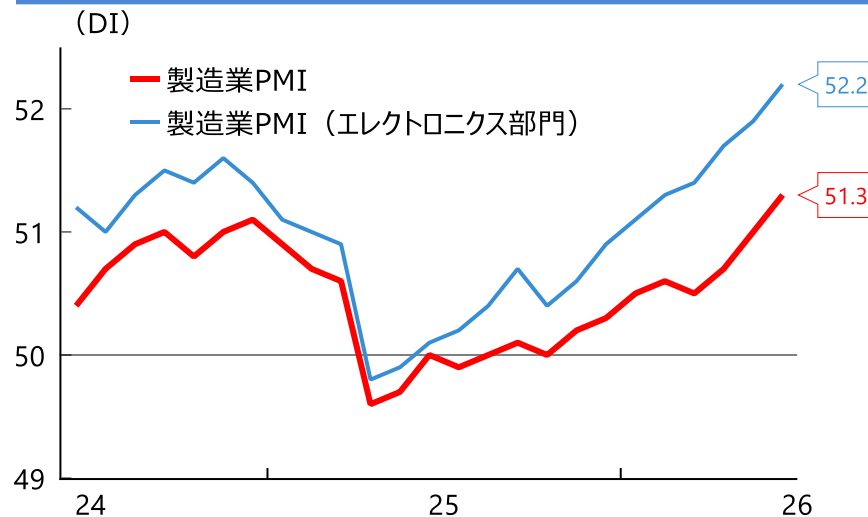
5月の実質小売売上高は前年比+3.0%と、前月（同+5.4%）からは増加幅が縮小。5月の自動車登録台数は同+1.7%と、税の優遇措置等から前年に登録台数が増加していた裏要因もあり、前月（同+16.4%）から増加幅は縮小。

■ 輸出は増加幅が縮小

6月の輸出は前年比+1.8%と、前月（同+6.1%）から増加幅が縮小。AI関連の先端電子部品に対する世界的な需要により、電子製品の輸出が好調だったものの、医薬品等の非電子部門の輸出が落ち込み、非石油輸出量の増加幅が縮小。

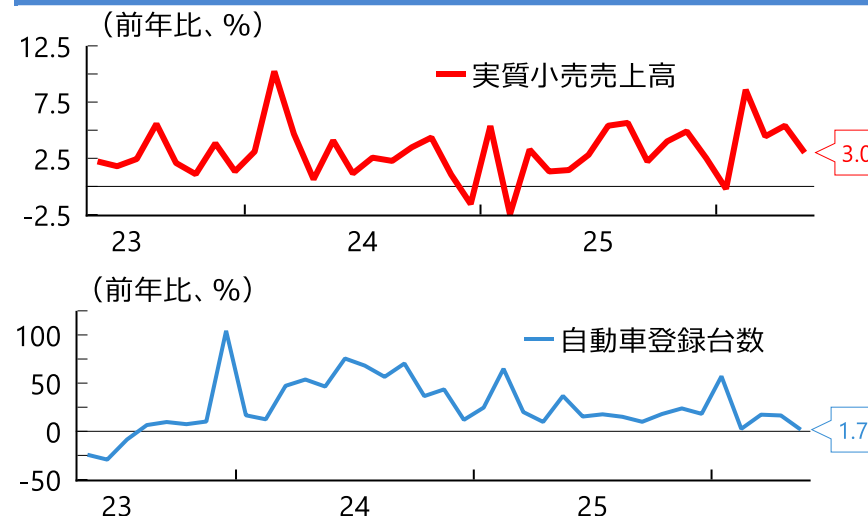
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



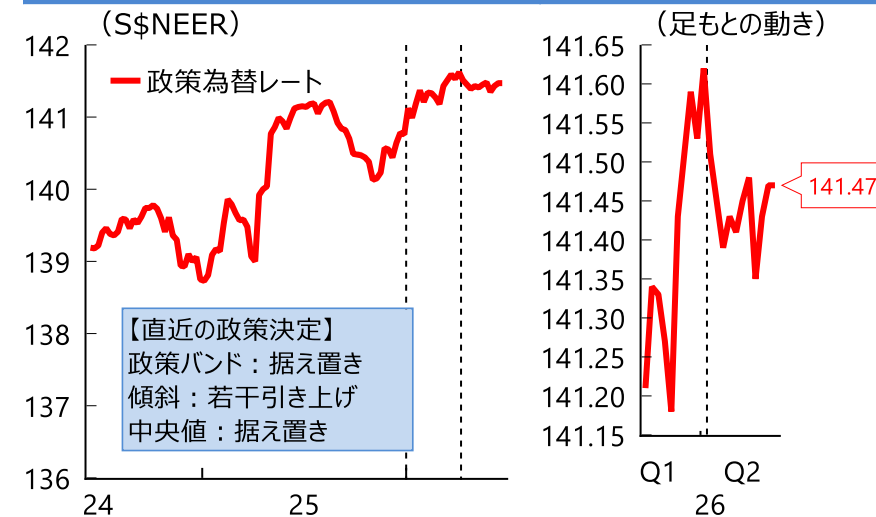
（注）直近は6月。シンガポール購買・原料管理研究所の公表値。

国内消費



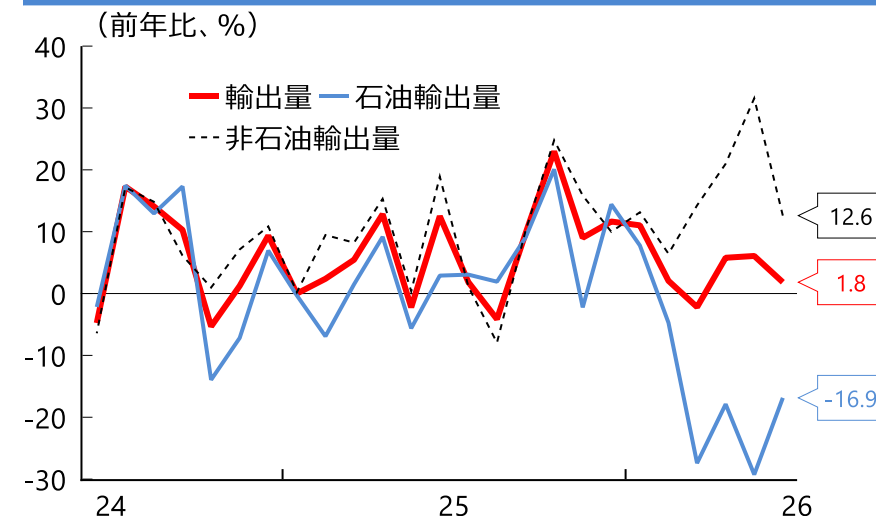
（注）直近は5月。

政策為替レート



（注）直近は6/26日の週。破線は直近2回の政策決定タイミング。

輸出



（注）直近は6月。再輸出を除いた地場輸出の実質輸出額。



インドネシア

■ PMIは縮小に転じる

6月の製造業PMIは46.9と、前月（50.0）から縮小に転じた。

■ BIはサプライズの据え置き

6月の総合CPIは前年比+3.3%と、前月（同+3.1%）から加速。
7月22日、インドネシア銀行（BI）は政策金利の据え置きを決定（5.75%）。据え置きはサプライズ、市場では25bpsの利上げを予想していた。直近では6月18日の定例理事会で利上げを行っていた（+25bps、5.50%→5.75%）。声明文では、「現在のBIレート（5.75%）の水準は、ルピア相場の安定を維持し、2026年と2027年のインフレ率を目標範囲である2.5±1%内に維持するうえで、引き続き十分かつ適切であると判断した」とした。

■ 消費は減少幅が拡大

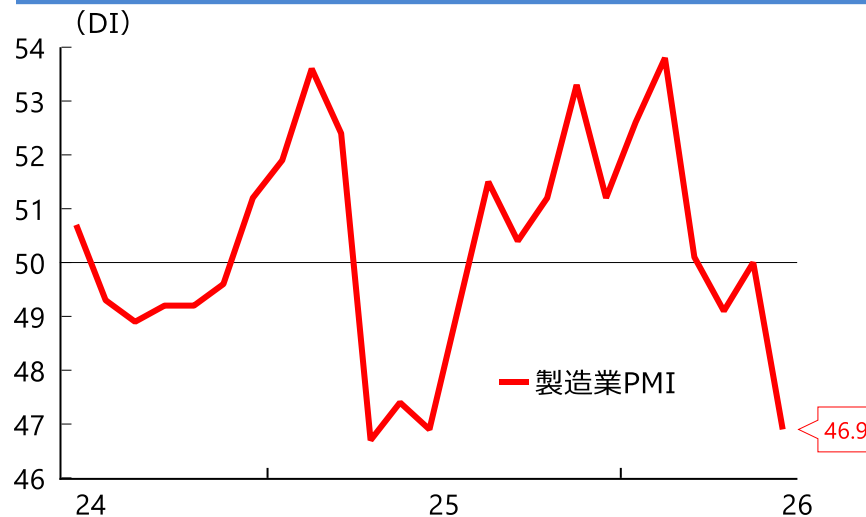
5月の小売売上高は前年比▲3.9%と、前月（同▲3.7%）から減少幅が拡大。
6月の中銀予測値は同▲4.4%と、引き続き減少見通し。

■ 輸出は減少に転じる

5月の輸出は前年比▲5.7%と、前月（同+22.0%）から減少に転じた。

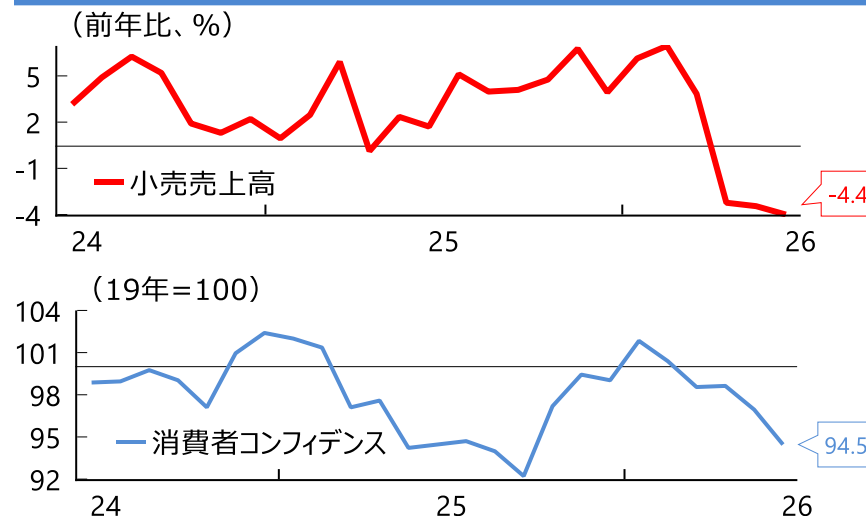
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



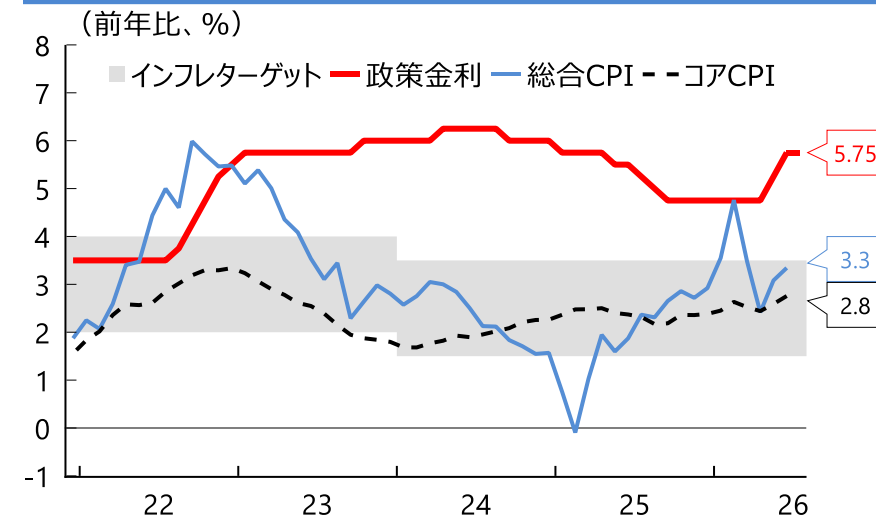
（注）直近は6月。

国内消費



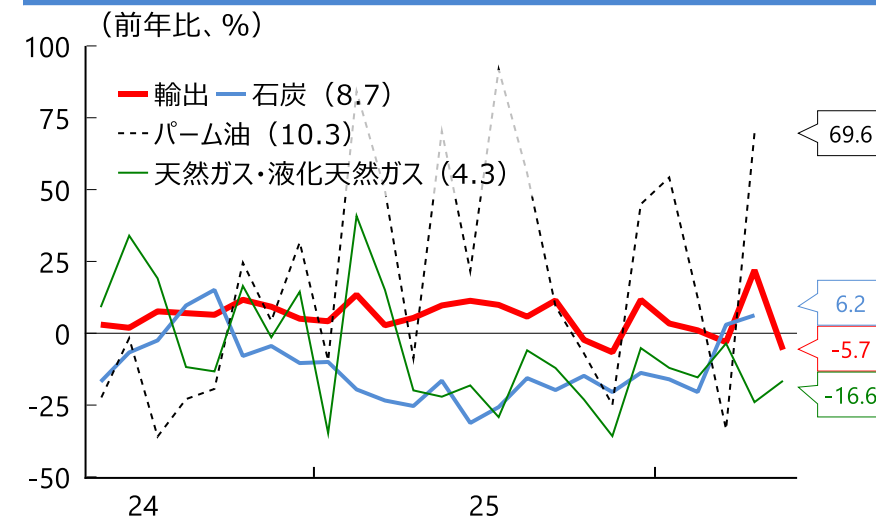
（注）直近は6月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

輸出



（注）直近は輸出と天然ガス・液化天然ガスが5月、その他は4月。（）内は25年輸出額に占める割合。9



タイ

■ PMIは引き続き拡大

6月の製造業PMIは53.6と、前月（52.6）に引き続き拡大。

■ 総合CPIは幾分鈍化

6月の総合CPIは前年比+2.4%と、前月（同+2.8%）から幾分鈍化。中東情勢の緊張緩和に伴いエネルギー価格が安定、輸送費のプラス寄与が縮小した。コアCPIは同+1.2%と、前月（同+0.9%）から幾分加速。

6月24日、タイ中銀（BOT）は政策金利の据え置きを決定（1.00%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、「現在の政策金利が経済回復を支えるのに適切であると考えている」として、インフレ動向を注視する姿勢を示した。

■ 消費は減少に転じる

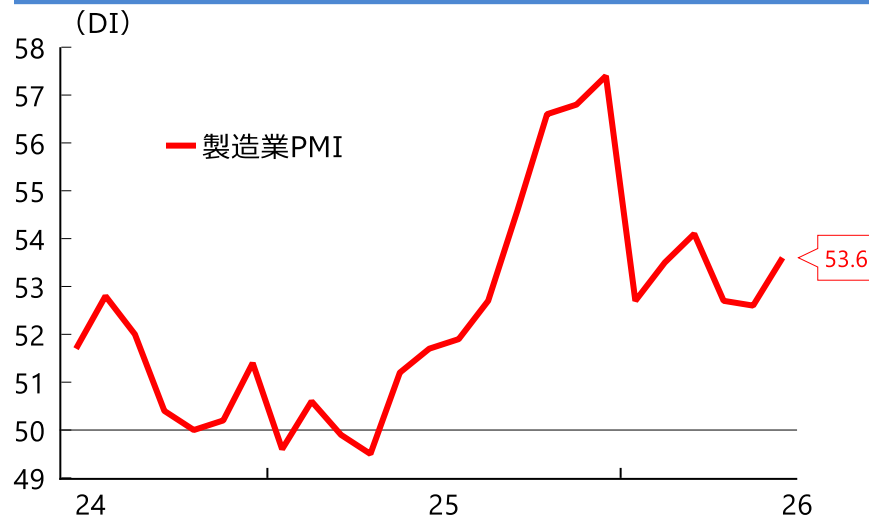
4月の小売売上高は前年比▲20.0%と、前月（同+21.3%）からは減少に転じた。生活費を押し上げるエネルギー価格の上昇を背景に、消費財や燃料などの非耐久財への支出が減少したことで減少した。

■ 観光客数は減少

6月単月は約184万人、前年比▲9.8%と減少。中国人観光客が同+7.4%と増加幅が縮小したことに加え、ASEAN諸国が同▲17.3%と減少した。

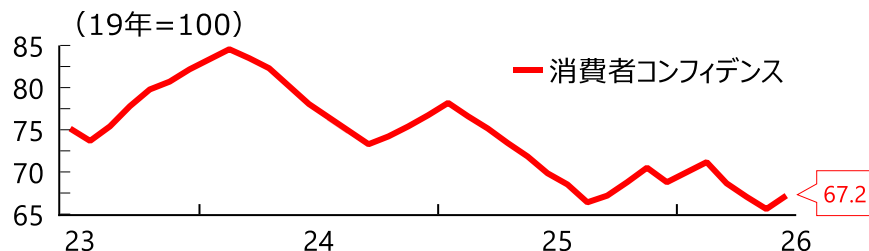
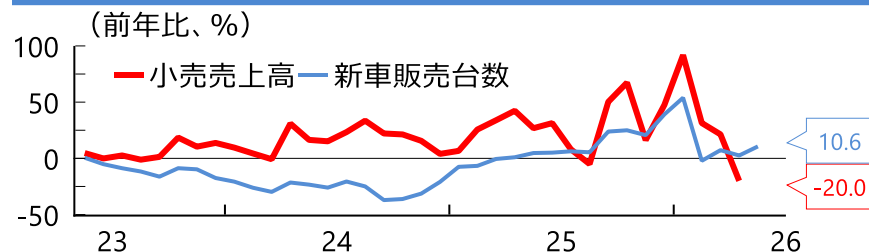
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



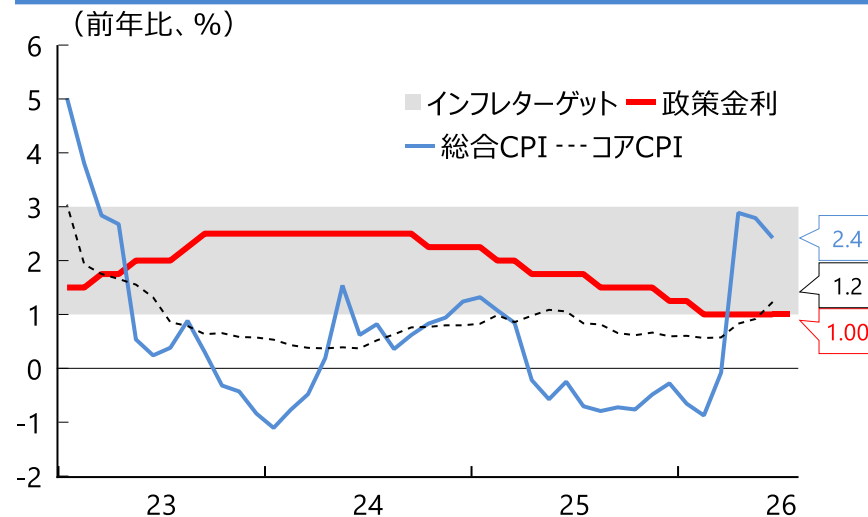
（注）直近は6月。

国内消費



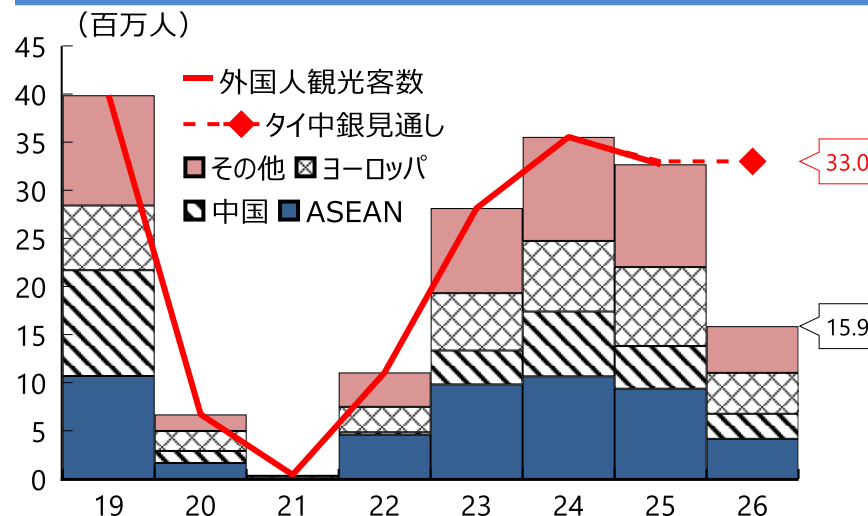
（注）直近は小売売上高が4月、新車販売台数が5月、消費者コンフィデンスが6月。

インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

外国人観光客数



（注）26年は6月時点実績。



フィリピン

■ PMIは引き続き拡大

6月の製造業PMIは50.9と、前月（50.8）に続き拡大。

■ BSPはインフレ対策で利上げ

6月の総合CPIは前年比+6.4%と、前月（同+6.8%）から幾分鈍化。中東情勢の緊張緩和に伴い、輸送費のプラス寄与が縮小し、総合CPIを押し下げた。もっとも、総合CPIのみならず、コアCPIも同+4.4%と、ターゲットレンジを超えて高い水準で推移している。

6月18日、フィリピン中銀（BSP）は利上げを決定（+25bps、4.50%→4.75%）。利上げは市場予想通り。声明文では、「本日の政策措置は、インフレ期待を安定させ、二次的な影響のリスクを軽減するのに役立つ」とした。

■ 新車販売台数は減少幅が縮小

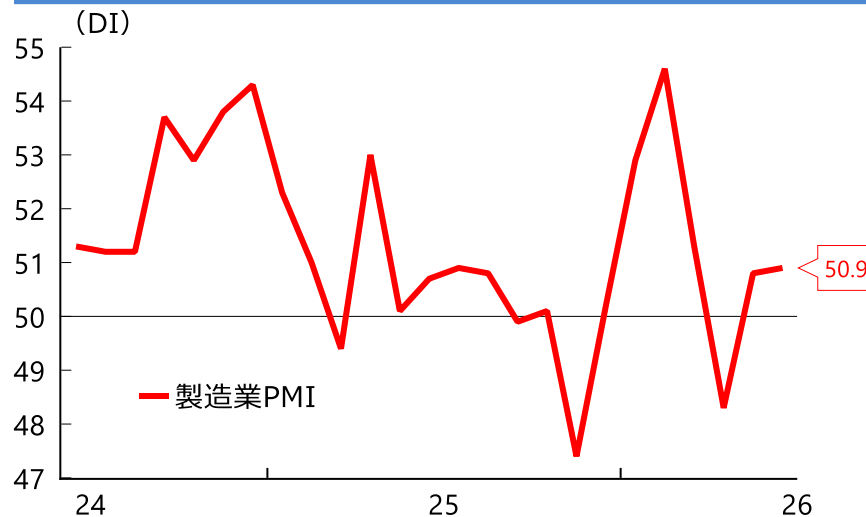
5月の新車販売台数は前年比▲15.7%と、前月（同▲18.9%）から減少幅が縮小。中東情勢の悪化に伴う燃料価格の激しい乱高下が一服したことで、冷え込んでいた消費マインドと自動車業界の先行き見通しが改善した。

■ 輸出は引き続き増加

5月の輸出は前年比+7.6%と、前月（同+7.2%）に続き増加。主力製品の電子製品が底堅く推移した。

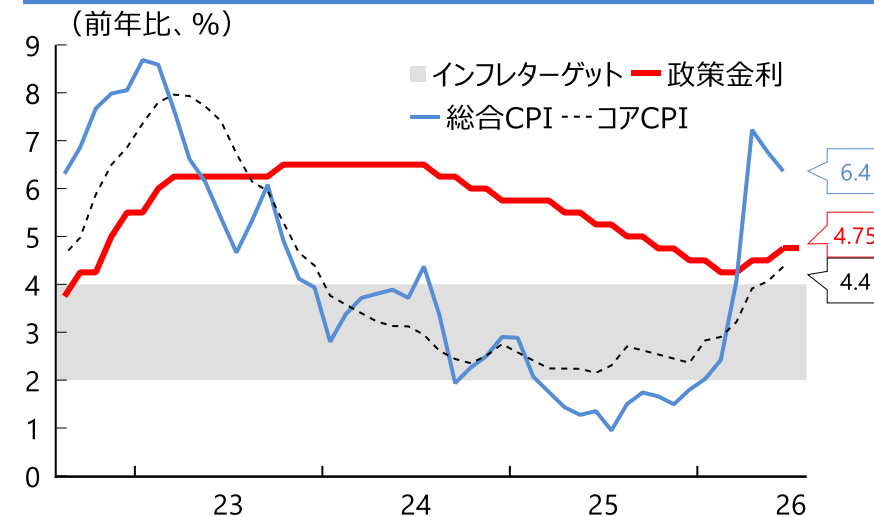
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



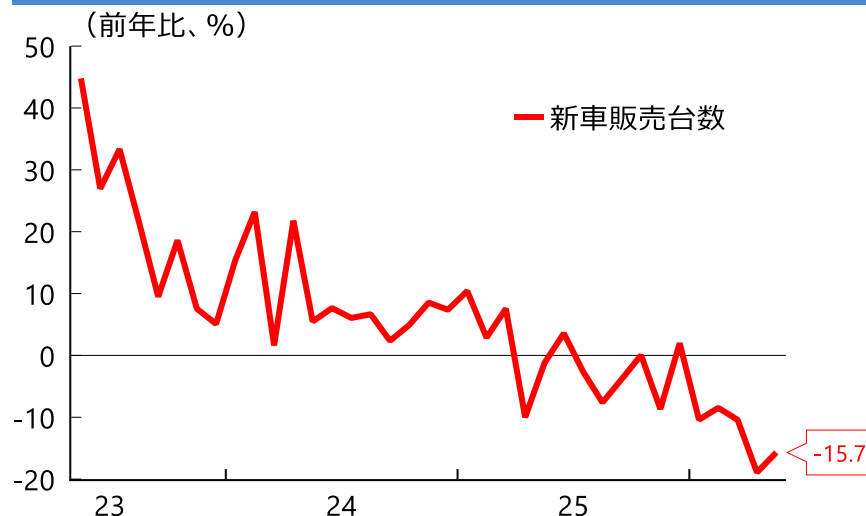
（注）直近は6月。

インフレ率と政策金利



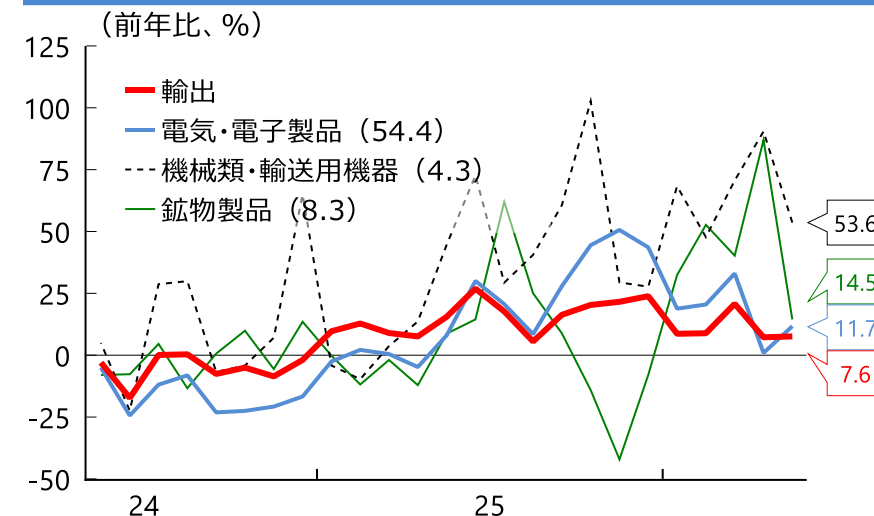
（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

国内消費



（注）直近は5月。

輸出



（注）直近は5月。（）内は25年輸出額に占める割合。



マレーシア

■ PMIは拡大に転じる

6月の製造業PMIは50.7と、前月（49.9）から拡大に転じた。

■ BNMは政策金利を据え置き

6月の総合CPIは前年比+1.9%と、前月（同+2.0%）からわずかに鈍化。中東情勢の緊張緩和に伴い、燃料価格が低下し、輸送費のプラス寄与が縮小した。7月6日、マレーシア中銀（BNM）は政策金利の据え置きを決定（2.75%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、「現在の政策金利水準で、金融政策スタンスは適切であり、物価安定と持続的な経済成長の見通しと整合的である」とした。

■ 消費は引き続き増加

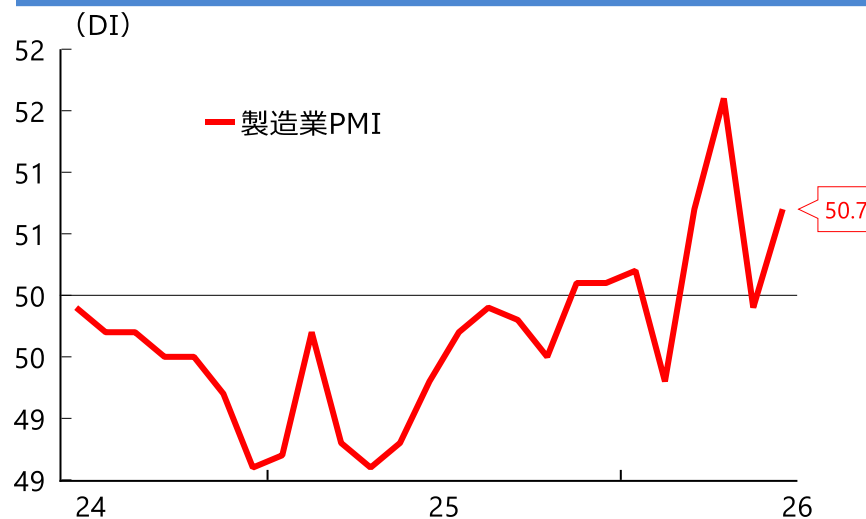
5月の小売売上高は前年比+4.4%と、前月（同+3.9%）に続き増加。一方、5月の新車販売台数は同▲12.0%と減少。前年は6月上旬だった祝祭日の連休が5月下旬にずれ込み、5月の操業・営業日数が減少したことが影響した。

■ 輸出は引き続き増加

4月の輸出は前年比+45.4%と、前月（同+44.7%）に続き増加。半導体を中心とする機械類・電気機器が輸出を牽引した。

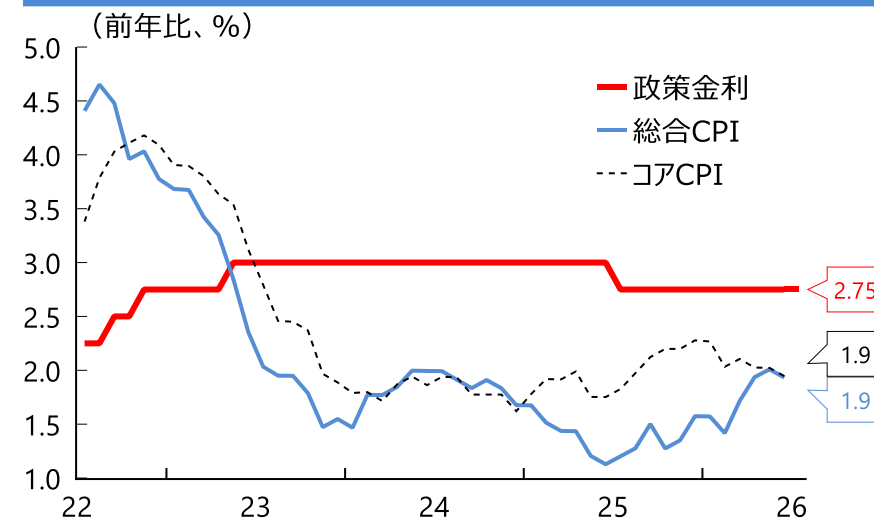
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



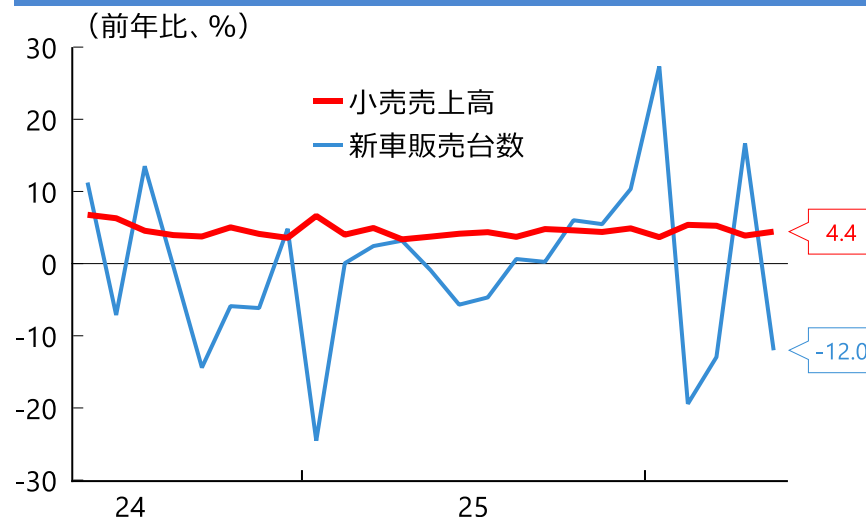
（注）直近は6月。

インフレ率と政策金利



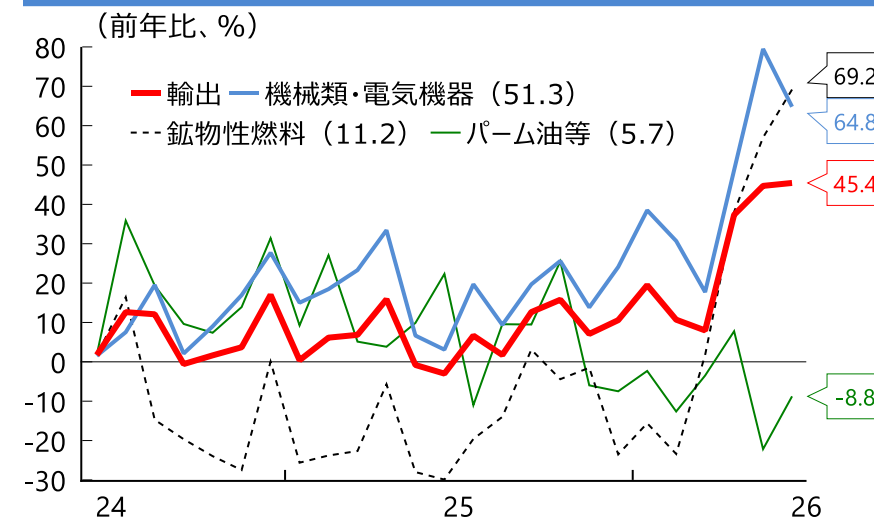
（注）直近は政策金利が7/21日、その他が6月。

国内消費



（注）直近は5月。

輸出



（注）直近は5月。現地通貨建ての輸出額。（）内は25年輸出額に占める割合。12



ベトナム



第一ライフ資産運用経済研究所

Daiichi Life Group

■ PMIは拡大ペースが鈍化

6月の製造業PMIは51.8と、前月（52.8）から拡大ペースが鈍化。

■ インフレ率は鈍化

6月の総合CPIは前年比+4.7%と、前月（同+5.6%）から鈍化。中東情勢の緊張緩和に伴い、燃料価格が低下し、輸送費のプラス寄与が縮小した。コアCPIも同+4.5%と、前月（同+4.7%）から幾分鈍化。

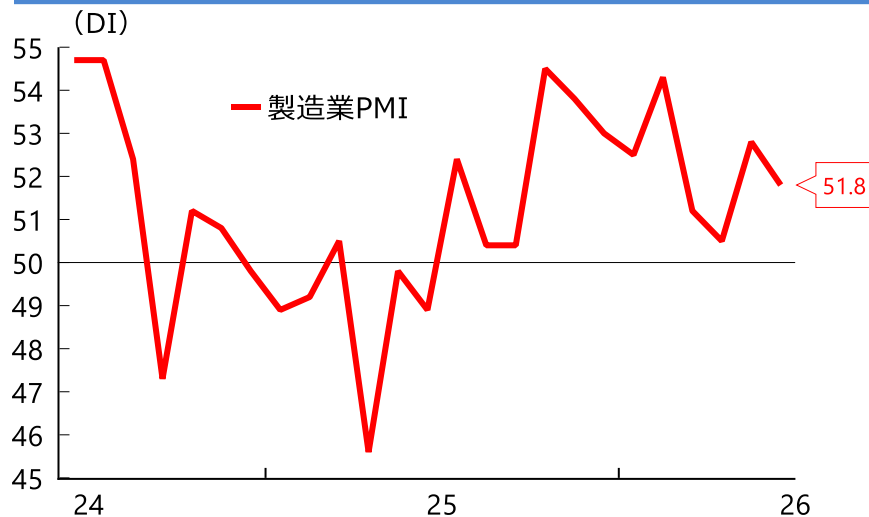
■ 消費は引き続き増加

5月の小売売上高は前年比+15.3%と、前月（同+12.5%）に続き増加。観光関連や宿泊・飲食サービスを中心に増加した。6月の当局予測値は同+16.7%と、さらに増加幅が拡大する見通し。6月の新車販売台数は同▲5.6%と、前月（同+6.5%）からは減少に転じた。

■ 輸出は引き続き増加

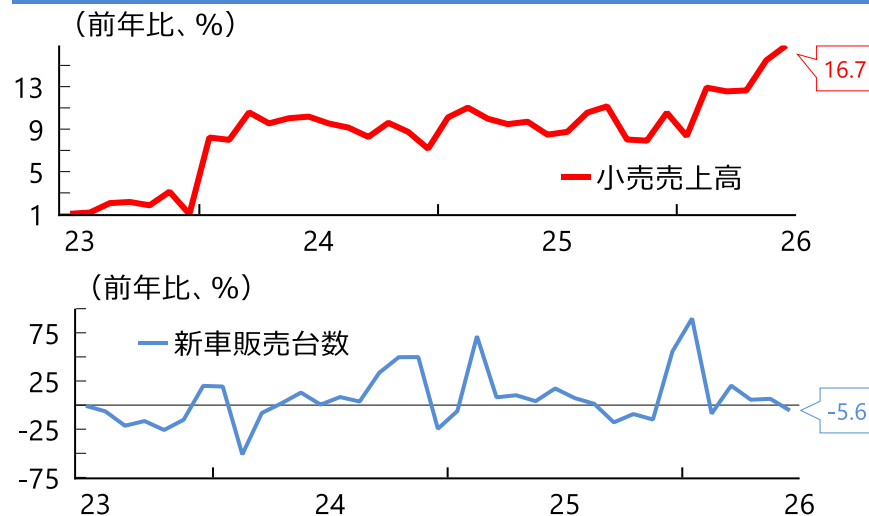
6月の輸出は前年比+31.9%と、前月（同+22.2%）に引き続き増加。電子製品や機械設備等、幅広いカテゴリーで輸出が増加した。

PMI



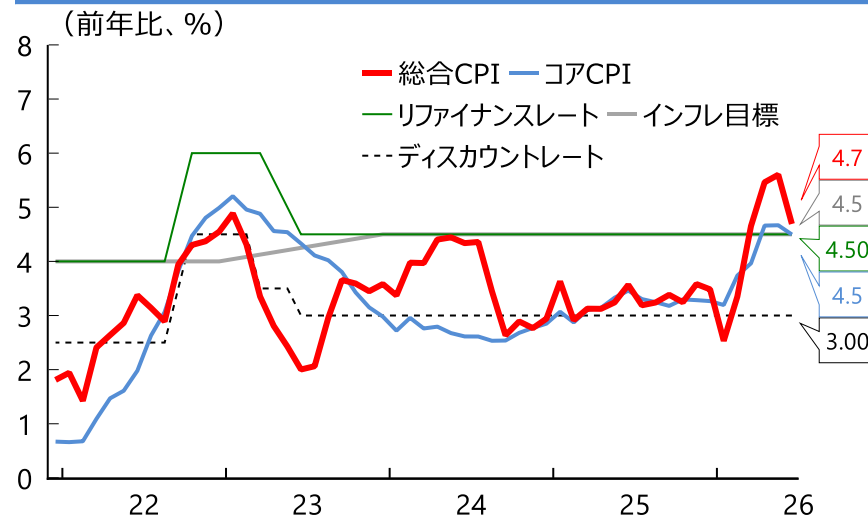
(注) 直近は6月。

国内消費



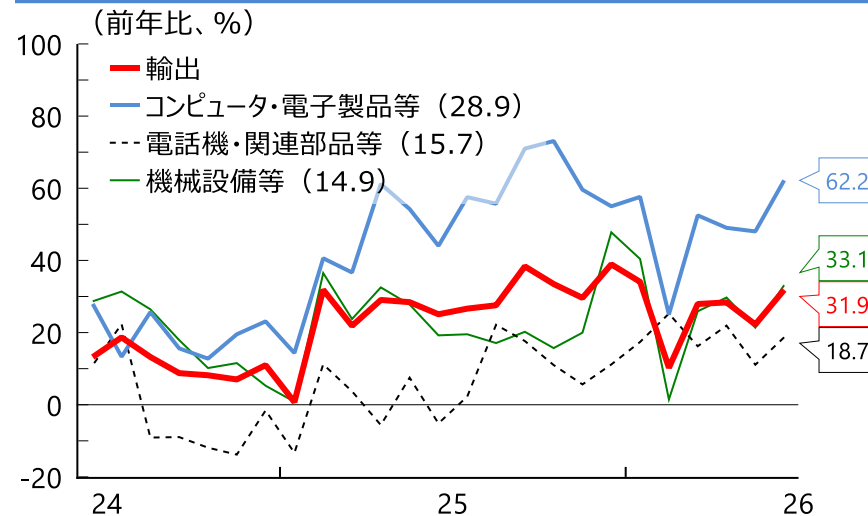
(注) 直近は6月。小売売上高の直近値は当局予測値。

インフレ率と政策金利



(注) 直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが7/21日、その他が6月。

輸出



(注) 直近は6月。米ドル建ての輸出額。()内は25年輸出額に占める割合。



オーストラリア

■ PMIは拡大に転じる

6月の総合PMIは50.4と、前月（48.7）から拡大に転じた。サービス業PMIが50.5と拡大に転じ、総合PMIを押し上げた。

■ インフレ率は物価抑制策で幾分鈍化

5月の総合CPIは前年比+4.0%と、前月（同+4.2%）から幾分鈍化。連邦政府は4月から3か月間、燃油税を半減させる物価抑制策を実施、輸送費のプラス寄与が縮小し、総合CPIを押し下げた。ただ、依然として、総合CPI、コアCPIともにインフレターゲットのレンジを上回って推移する状況が続いている。

6月16日、RBAは政策金利の据え置きを決定（4.35%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、「これまでの利上げに対する反応と原油供給途絶の影響を評価する間、政策金利を据え置くことが適切である」とした。

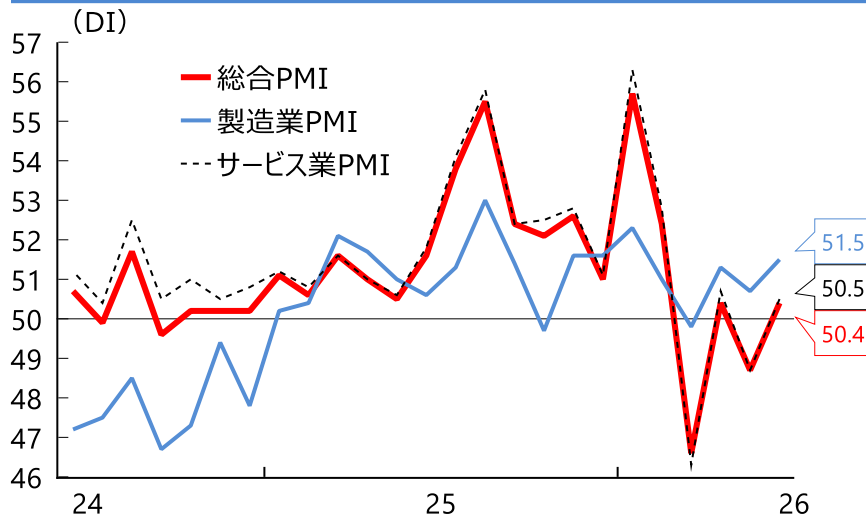
■ 消費は増加に転じる

5月の家計支出は前期比+1.3%と、前月（同▲1.1%）から増加に転じた。

■ 輸出は減少に転じる

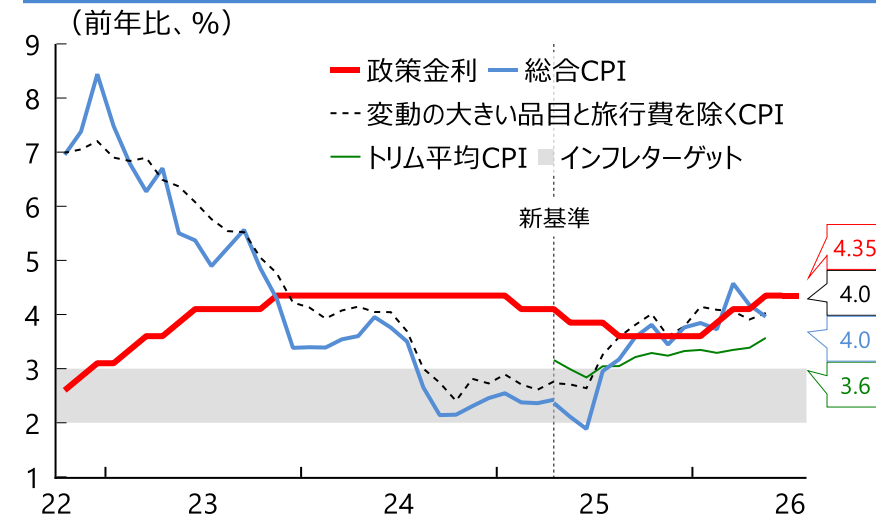
5月の輸出は前期比▲6.9%と、前月（同+7.2%）から減少に転じた。非貨幣用金や鉱石・鉱物の輸出が減少した。

PMI



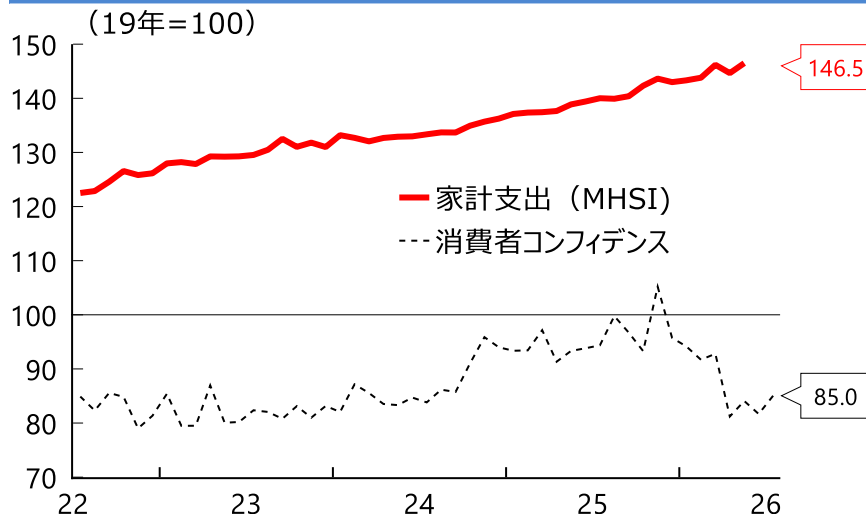
（注）直近は6月。

インフレ率と政策金利



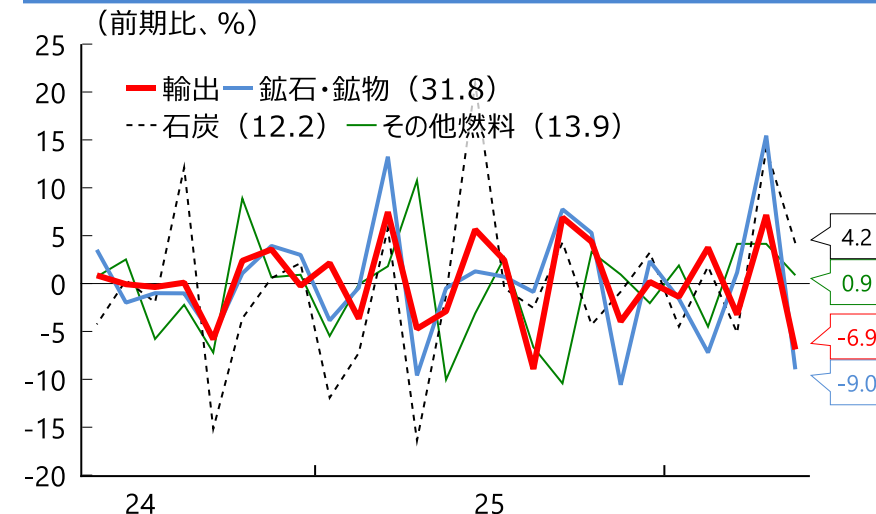
（注）直近は政策金利が7/21日、その他が5月。25/4月以降は新基準の月次CPI前年比。

消費と住宅投資



（注）直近は消費者コンフィデンスが7月、家計支出が5月。SA系列。

輸出



（注）直近は5月。SA系列。（）内は25年輸出額に占める割合。



ニュージーランド

■ PMIは拡大に転じる

6月の総合PMIは51.2と、前月（48.0）から拡大に転じた。製造業PMIは59.7と、新規受注指数や生産指数の拡大ペースが加速した。

■ RBNZは予想通りの据え置き

4～6月期の総合CPIは前年比+4.1%と、前期（同+3.1%）から加速。中東情勢の悪化を受けて燃料価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。

7月8日、RBNZは利上げを決定（+25bps、2.25%→2.50%）。利上げは市場予想通り。利上げは2023年5月以来、約3年ぶり。声明文では、「インフレ率が依然として目標を上回っており、経済活動の強化が見込まれることから、インフレ率を目標の中間値である2%に戻すためには、金融緩和策のさらなる縮小が必要となる可能性が高い」とした。

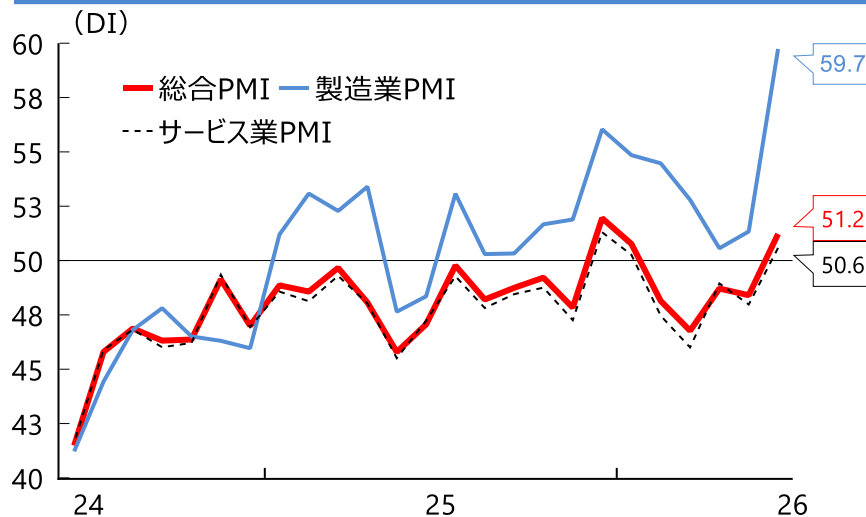
■ 消費は引き続き増加

1～3月の小売売上高は前期比+0.9%と、前期（同+0.9%）に続き増加。

■ 輸出は引き続き増加

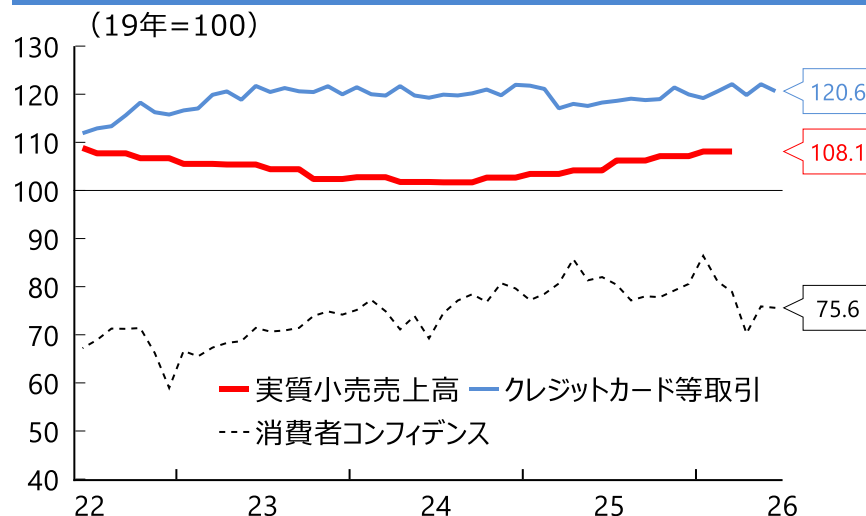
6月の輸出は前期比+5.5%と、前月（同+1.4%）から増加幅が拡大。乳製品や食肉などに支えられ、底堅く推移。

PMI



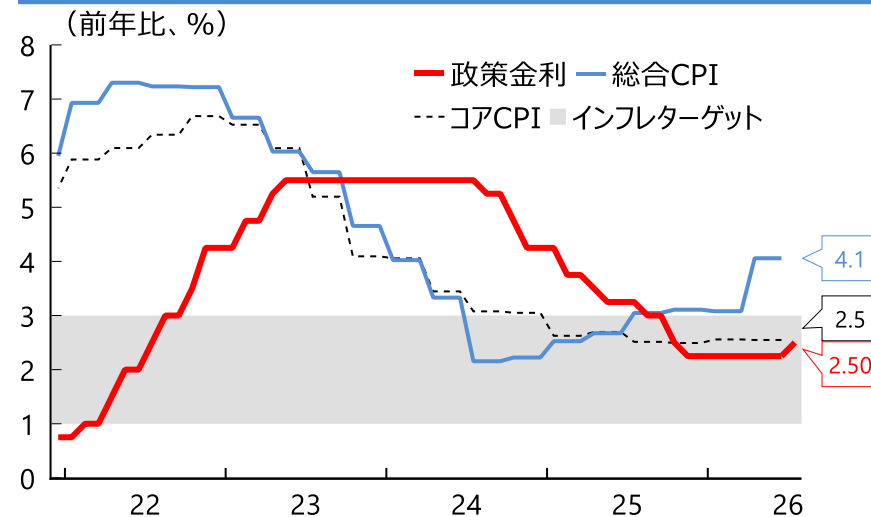
（注）直近は6月。

消費



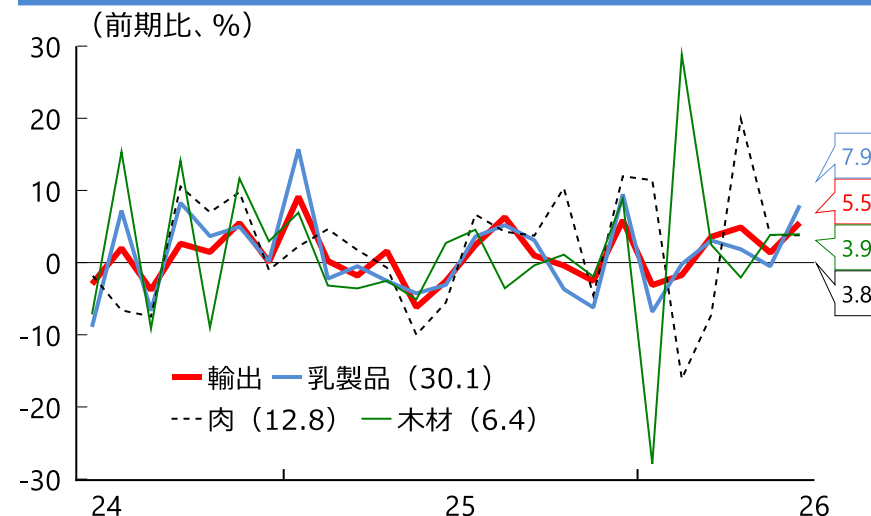
（注）直近は小売売上高が26/1Q、その他が6月。SA系列。

インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が7/21日、その他が26/2Q。

輸出



（注）直近は6月。SA系列。（）内は25年輸出額に占める割合。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。